

AIプラットフォーム企業によるデータ経済圏を対象とするデータの経営学と経済学の統合

専門分野

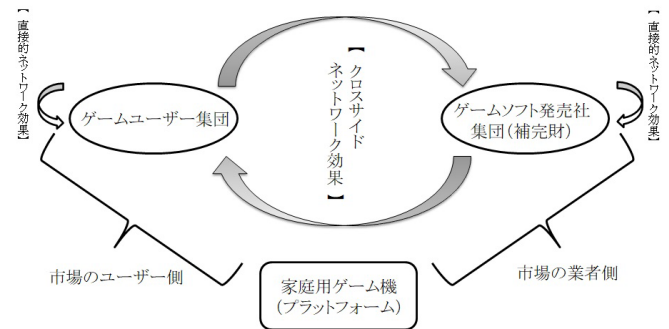
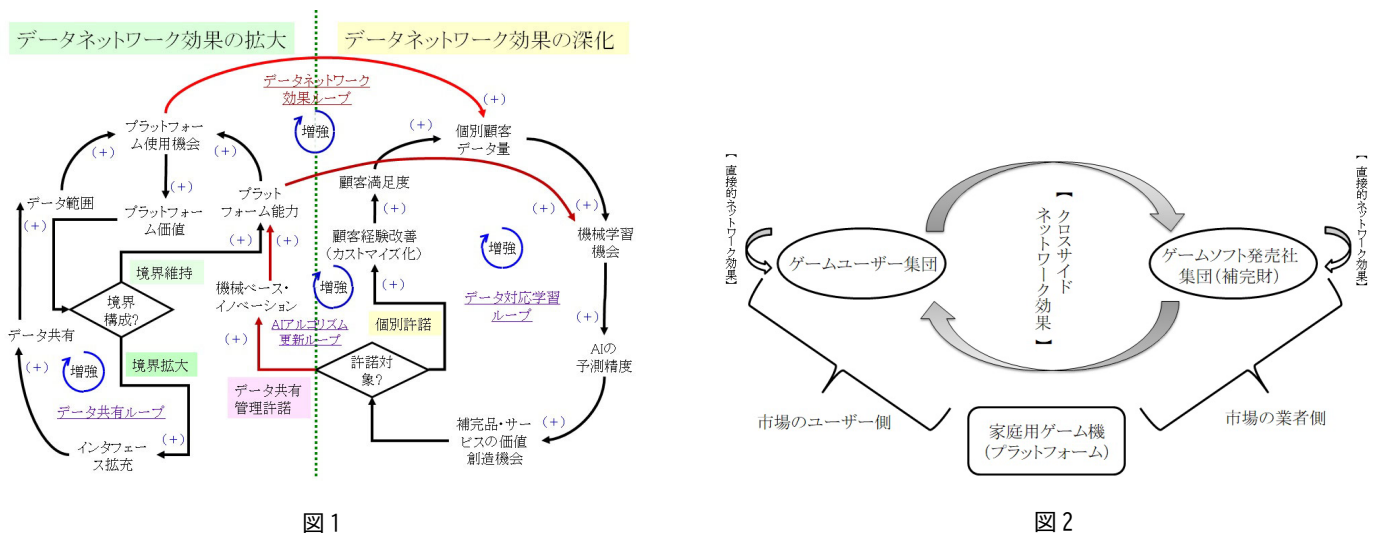
商学・経済 経営工学

キーワード

AIプラットフォーム企業 データネットワーク効果
データ経済圏 デジタル戦略

研究目的・概要

研究の目的は、ビッグデータと人工知能（AI）の普及に対応したプラットフォーム（※¹）の新たな理論であるデータネットワーク効果（※²）の枠組みを拡大し、AI プラットフォーム企業（※³）と個人履歴データ販売も選択可能な消費者によるデータ経済圏（※⁴）を対象とするデータの経営学および経済学の理論化およびシミュレーションの統合的展開を目指すものである。本研究の基本的立場は、ビッグデータを用いた深層学習が実用化された 2016 年以降の人工知能（AI）の計算能力を事業の中核機能あるいは主流の製品・サービスとして位置づけて利用する企業（AI プラットフォーム企業）とその利用者群（補完事業者群および消費者群）が形成するデータ経済圏の急速な拡大、そして強過ぎる一部の AI プラットフォーム企業に関わる諸問題を学術的に論じるためには、最新の情報システム論、経営学および経済学の統合的アプローチによる展開が必要というものである。



- (※¹) プラットフォームは、異なる 2 種類以上の利用者集団を結びつけてネットワークを構成し、補完財の取引の促進および調整装置として機能する製品・サービスまたは事業者の総称である。
- (※²) データネットワーク効果は、利用者から収集したデータからプラットフォームが学習する程、プラットフォームが各利用者にとって、より価値が高まる現象を説明する概念である。
- (※³) AI プラットフォーム企業は、収集した利用者データに基づいた予測の速度と正確性から価値創造できる AI 能力を保有するプラットフォームの開発および運営を行う企業である。
- (※⁴) データ経済圏は、AI プラットフォーム企業が仲介する伝統型市場および新たなデータ駆動型市場を包括した概念である。



経営情報学部 経営学科
木村 誠 教授

担当科目：経営情報論、流通論、デジタル戦略論

HP
Researchmap

<https://www.nuis.ac.jp/teacher/kimura/>
<https://researchmap.jp/platform>